

湯沢市 第4期橋梁長寿命化修繕計画



市道横川・町後線 常盤橋

令和8年3月

湯沢市 建設部 建設課

= 目 次 =

1. 橋梁長寿命化修繕計画の目的	1
2. 橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁および計画期間(第4期)	5
3. 対策の基本方針	6
4. 費用の縮減に関する基本方針	7
5. 対策を実施した橋梁の修繕内容および次回橋梁点検年度	9
6. 計画を策定した橋梁の修繕内容および次回橋梁点検年度	10
7. 計画の推移と財政の見通し	11
8. 計画策定担当部署	11

【参考】

第1期 橋梁長寿命化修繕計画

平成22年度策定 対象橋梁 N= 95橋(橋長15m以上)

第2期 橋梁長寿命化修繕計画

平成28年度策定 対象橋梁 N= 95橋(橋長15m以上)

第3期 橋梁長寿命化修繕計画

令和2年度策定 対象橋梁 N=490橋(全橋梁)

第4期 橋梁長寿命化修繕計画

令和7年度策定(今回) 対象橋梁 N=484 橋(全橋梁)

1. 橋梁長寿命化修繕計画の目的

(1)背景

2025年度末現在、湯沢市で管理している橋梁は484橋あります。このうち、架設年次が判明している302橋でみると、2025年度末時点で架設後50年以上経過している橋梁は131橋(43%)ですが、10年後の2035年には229橋(76%)、20年後の2045年には267橋(88%)になる見通しです。

これらの高齢化を迎える橋梁群に対して、橋梁の機能が喪失した時点あるいは喪失する直前に修繕を行った場合、橋梁の修繕・架替えに要する費用が増大することが懸念され、限られた財源の中で適切な維持管理を行うことが困難になる恐れがあります。

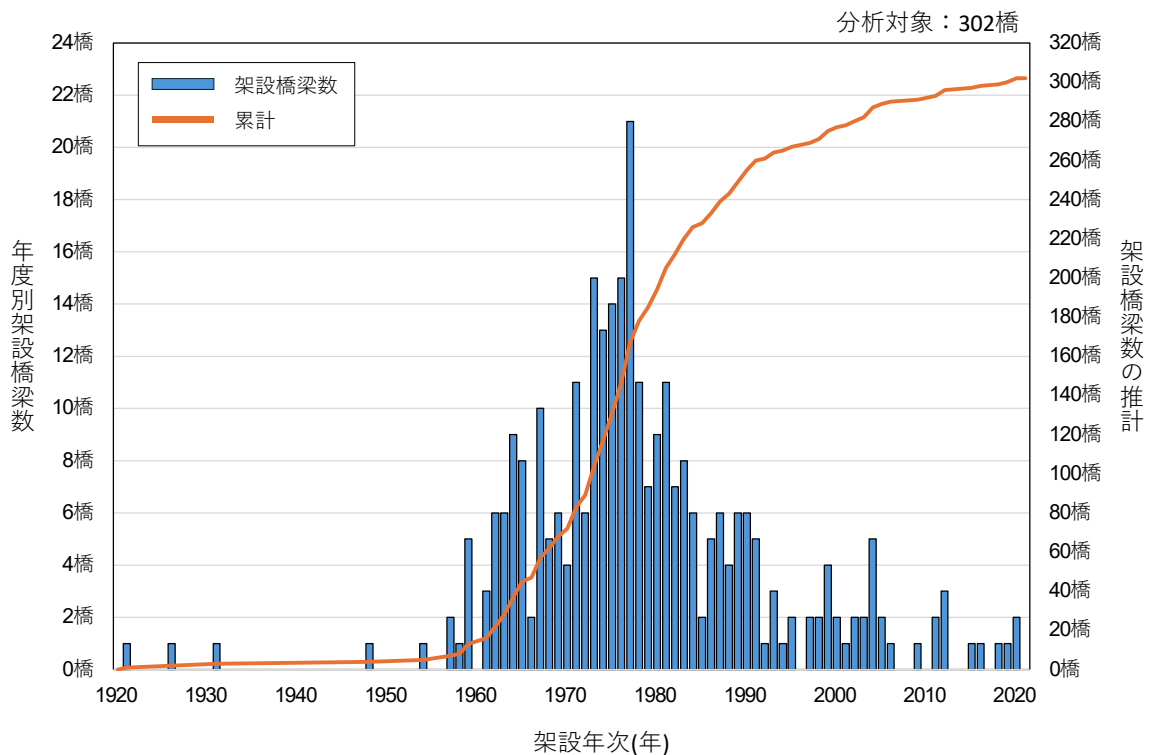
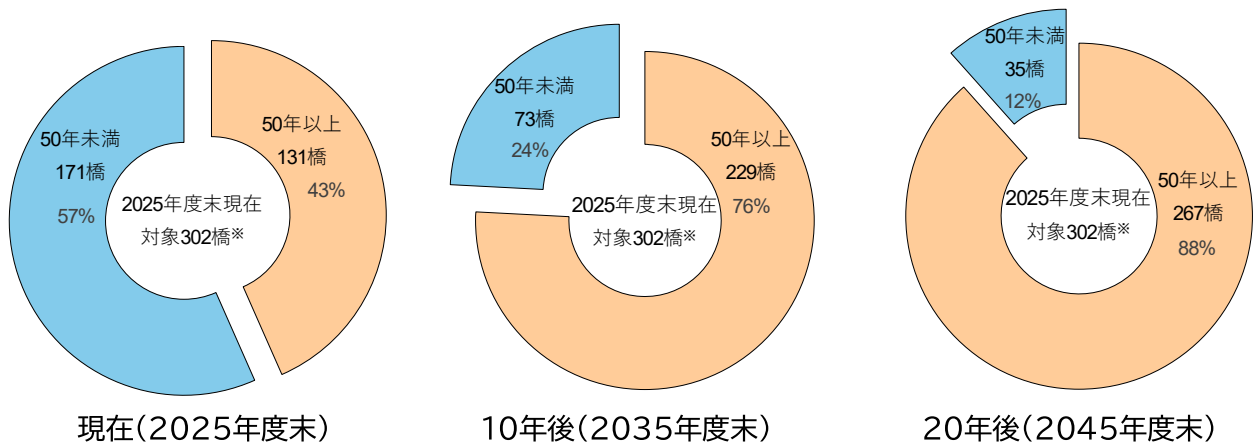


図-1 架設年次別橋梁数の分布



※管理橋梁484橋のうち、架設年次が明確な302橋を対象

図-2 架設後50年が経過する橋梁の割合の推移

(2)橋の健全性

橋の状態については、道路法の改正により、平成26年7月から全ての橋梁に対して5年に1度の頻度で近接目視による点検により確認することが基本となりました。

湯沢市では、下記のとおり橋の定期点検を実施し、橋の健全性を評価しています。

① 橋梁定期点検の実施

「道路橋定期点検要領 国土交通省道路局 令和6年3月」に基づき、梯子、リフト車や橋梁点検車等を用いて橋梁に近接し、損傷状況の把握を実施しているところであり、さらにドローン等の新技術等の活用を検討し、費用の縮減や事業の効率化等を図ります。



② 健全性の評価

「道路橋定期点検要領 国土交通省道路局 令和6年3月」に基づく点検結果から、機能の支障の有無、措置の要否・緊急性をⅠ～Ⅳの4段階で評価します。

湯沢市が管理している橋梁484橋において、緊急措置段階(判定区分Ⅳ)の橋梁が5橋、早期措置段階(判定区分Ⅲ)の橋梁が30橋確認されています。

判定区分		状態
Ⅰ	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
Ⅱ	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
Ⅲ	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
Ⅳ	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

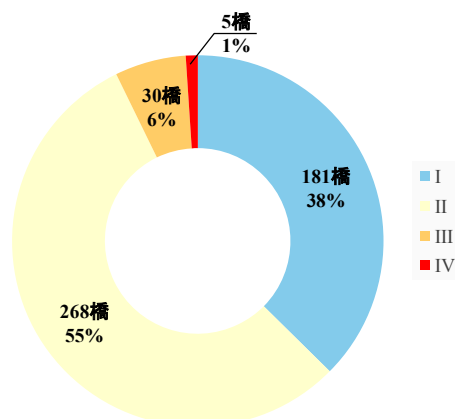


図-3 点検結果による判定区分の内訳

(3) 計画の策定方針

今後、急速に高齢化を迎える橋梁に対し、適切な維持管理を行うためには、効率的に橋梁を維持していく取り組みが不可欠となります。主に下記に示す3つの方針により、橋梁長寿命化修繕計画を策定します。

①道路ネットワークの安全性の確保

橋梁点検や修繕・架替えを計画的に進め、事故等につながる損傷を早期に発見するとともに、生活や一般交通に支障を及ぼさないよう橋梁を最適な状態に保ち、道路ネットワークの安全性を確保します。

②長寿命化およびコスト縮減

損傷が深刻化してから大規模な修繕を実施する事後保全型管理から、予防保全型管理(橋梁毎に適切な時期に修繕を実施する維持管理方針)とすることで、橋梁の長寿命化を図るとともに、維持管理費の増大を抑制します。

③メリハリのある維持管理区分の設定による維持管理費の平準化および縮減

橋梁諸元、架橋条件や路線の重要度に応じ、橋梁毎に維持管理方針を分類することによって、メリハリのある維持管理を行い、将来における維持管理費の集中を抑制します。

表-1 維持管理区分別の対象橋梁および措置方針

維持管理区分	対象橋梁	措置方針	
		早期に措置を講ずべき損傷 (判定区分Ⅲ)	予防保全の観点から措置が望ましい損傷 (判定区分Ⅱ)
予防保全型	<ul style="list-style-type: none"> ・ 跨線橋 ・ 一級河川(雄物川、皆瀬川)を跨ぐ橋梁 ・ トラス橋やアーチ橋等の特殊な構造形式の橋梁 	実施する	実施する
機能保全型①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予防保全型、機能保全型②に該当しない橋梁 	実施する	実施する (損傷の原因となっている部材のみ)
機能保全型②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 架替え計画、撤去計画のある橋梁 ・ RC床版橋や溝橋等の単純な構造形式の橋梁 ・ 橋長5m未満の小規模橋梁 ・ 木橋等の補修が馴染まない橋梁 	実施する	実施しない

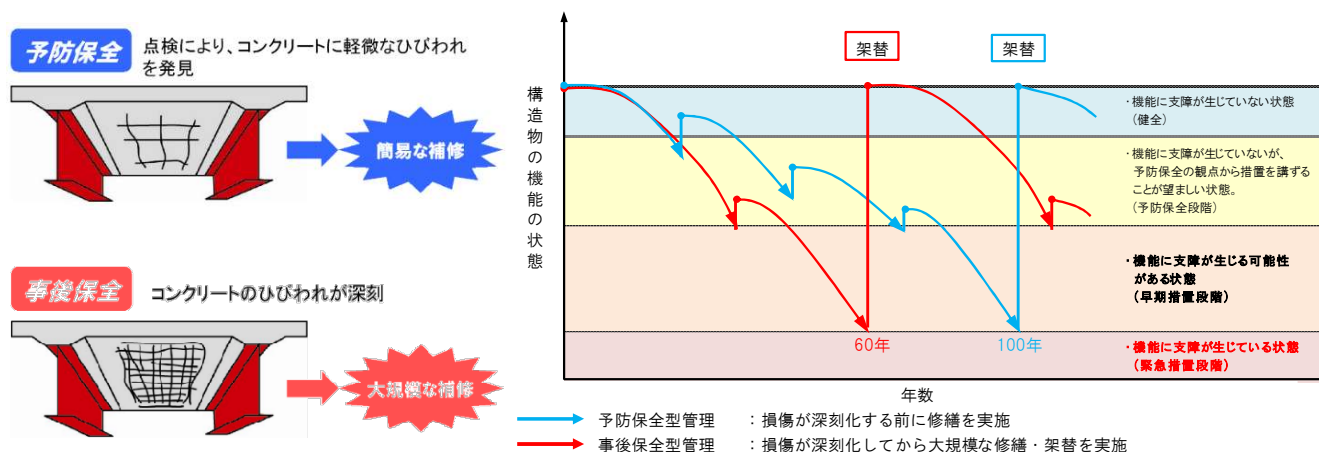


図-4 維持管理区分に応じた修繕のイメージ

(4) 計画策定によるコスト縮減効果(参考)

計画策定によるコスト縮減効果は、2020年度策定の第3期橋梁長寿命化修繕計画において試算しています。

この試算によると予防保全管理を実施した場合、全管理橋梁に対して事後保全管理を実施した場合と比べて、2020年度から2069年度までの50年間において、総事業費193億円(40%)、年間の総事業費3.9億円のコスト縮減効果が得られる結果となります。

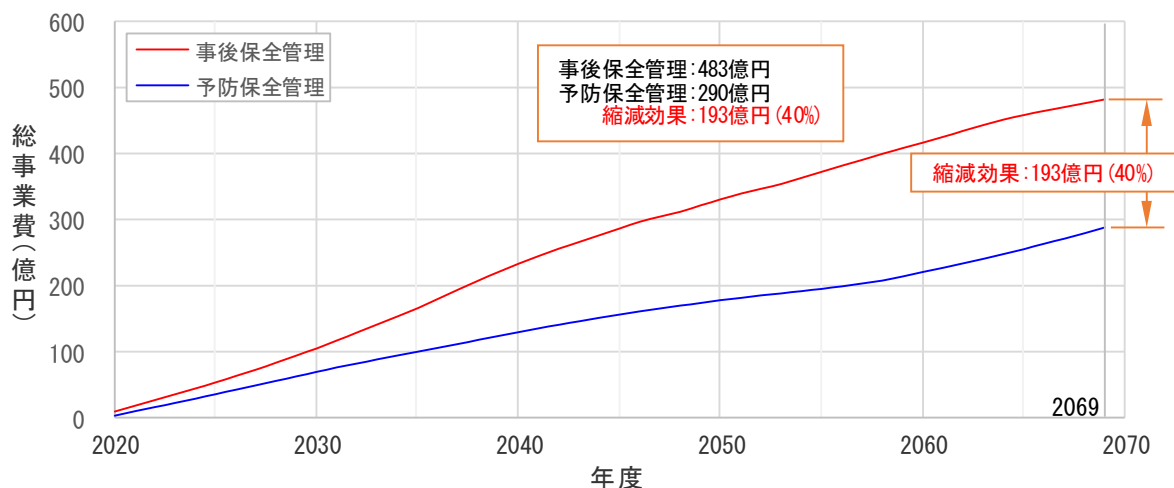


図-5 長期的なコスト縮減効果

(5) 計画策定内容

2025年度に策定する第4期計画では、2026年度から2030年度に取り組む点検や修繕等について、点検支援技術活用および集約化・撤去によるコスト縮減効果の検討を行い、その結果を踏まえ、具体的な対策内容や対策時期等を明示しています。

2. 橋梁長寿命化修繕計画(第4期)の対象橋梁および計画期間

(1)対象橋梁

湯沢市が管理する橋梁484橋のうち、2026年度以降に対策が必要な緊急措置段階(判定区分Ⅳ)および早期措置段階(判定区分Ⅲ)の29橋を対象に橋梁長寿命化修繕計画の見直しを行います。

※ 『1. (3)健全性の評価』に示す判定区分ⅣおよびⅢと評価された35橋のうち、2025年度末までに対策が完了する6橋を除いた29橋を対象としています。

表-2 計画策定橋梁数

計 画	対象橋梁数	計画策定橋梁数	備 考
第3期	490	48	判定区分ⅣおよびⅢの橋梁
第4期	484	29	判定区分ⅣおよびⅢの橋梁

対象橋梁の一例



赤倉橋(アーチ橋 橋長115.0m)



滝ノ原橋(PC橋 橋長51.5m)



岩崎弁天排水路1号橋(RC橋 橋長6.1m)



大沢1号橋(溝橋 橋長2.8m)

(2)計画期間

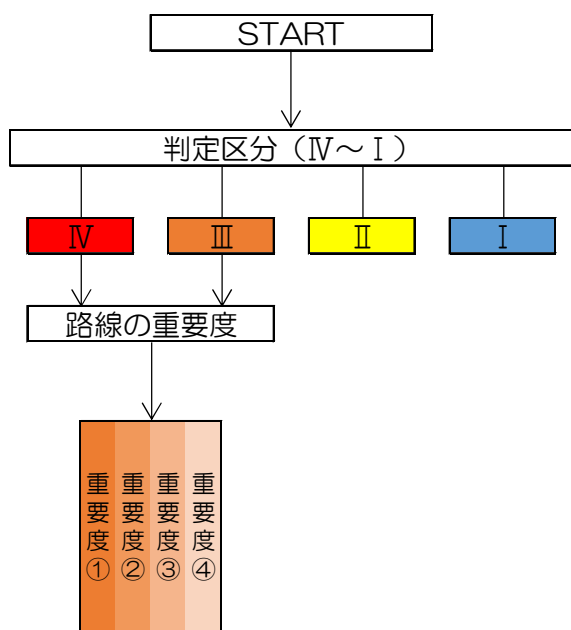
第4期の計画期間としては、2020年度から2024年度の点検により判明した緊急措置段階および早期措置段階の橋梁について、**2026年度から2030年度の5年間で修繕を行うこととします。**

3.対策の基本方針

(1)対策優先順位の設定

緊急措置段階(判定区分Ⅳ)および早期措置段階(判定区分Ⅲ)の橋梁29橋について、2026年度から5年間で修繕を行うにあたり、対策優先順位を設定します。

対策優先順位は、橋梁の判定区分(ⅣおよびⅢ)と路線の重要度(跨線橋、バス路線等)を用いて、緊急措置段階の対策を優先することを基本とし、判定区分が同一の橋梁群の中では路線の重要度が高い橋梁の対策を優先します。



(優先順位: **重要度①** → **重要度②** → **重要度③** → **重要度④**)

図-6 対策優先順位の設定イメージ

(2)路線の重要度の設定

機能喪失時に社会的影響が大きいと考えられる橋梁を対象に、架橋条件や道路ネットワークの視点から重要度を設定しています。

重要度の高い評価項目に該当する橋梁から順に対策優先度を高くしています。

表-3 路線の重要度評価項目

重要度		評価項目
高 ↑ ↓ 低	重要度①	跨線橋、一級河川を跨ぐ橋梁
	重要度②	1級路線、都市計画道路、バス路線にある橋梁
	重要度③	交通拠点(JR駅、高速道路IC)、主要施設*から1km圏内にある橋梁
	重要度④	通行止め規制などを実施している橋梁(上記項目以外)

*主要施設:市役所・支所、小学校・中学校、医療機関(総合病院)、消防署および指定避難所

4. 費用の縮減に関する基本方針

(1)点検支援技術活用の検討

5年に1回の頻度を基本とした定期点検において、橋梁点検車及び高所作業車を使用する橋梁について、新技術情報提供システム(NETIS)や点検支援技術性能カタログに掲載の点検支援技術を活用し、コスト縮減を図ります。



写真-1 点検支援技術活用イメージ(ポールカメラ)

(2)集約化・撤去の検討

集約化・撤去を検討することで、今後の維持管理に係る修繕等のコスト縮減を図ります。



写真-2 集約化・撤去橋梁(白子川橋)

(3)費用の縮減に関する具体的な方針

【新技術の活用】

2030年度までに、管理する橋梁のうち11橋で新技術情報提供システム(NETIS)や点検支援技術性能カタログに記載のある新技術を活用し、従来技術を活用した場合と比較して約800千円のコスト縮減を目指します。

【集約化・撤去の活用】

2030年度までに3橋程度について、施設の撤去に伴う迂回路整備、機能縮小、複数施設の集約化等を検討し、約77百万円のコスト縮減を目指します。

5. 対策を実施した橋梁の修繕内容

第3期橋梁長寿命化修繕計画に基づき実施した修繕内容を示します。

表-4(1) 第3期橋梁長寿命化修繕計画に基づき対策を実施した橋梁

番号	橋名	路線名	橋長 (m)	架設年	最新の 点検年度	判定 区分	修繕内容	次回 点検年度	対策の 着手年	対策の 完了年
1	見返橋	市道山居野・殿上線	15.0	1977	2019	I	鋼部材の修繕,床版の修繕,支承の修繕等	2024	2019	2019
2	森橋	市道森金谷線	27.0	1964	2022	II	床版の修繕,地覆の修繕	2027	2019	2020
3	向楸柄橋	市道打越沢ノ上線	28.9	1974	2023	II	鋼部材の修繕,床版の修繕,支承の修繕等	2028	2020	2020
4	乗上橋	市道下新田下ノ岱線	35.0	1986	2023	I	鋼部材の修繕,床版の修繕,支承の修繕等	2028	2020	2020
5	万石橋	市道馬場・小町線	170.6	1926	2024	II	直轄代行業業実施済	2029	2017	2020
6	明戸橋	市道明戸線	42.7	1984	2024	II	床版の修繕,地覆の修繕	2029	2021	2021
7	立石橋	市道立石前線	13.2	1948	2016	III	撤去	-	2021	2021
8	京塚橋	市道新田京塚線	136.0	1976	2023	II	主桁の修繕,床版の修繕,伸縮装置の修繕等	2028	2022	2022
9	宮月橋	市道宮月線	64.4	1976	2023	I	鋼部材の修繕,床版の修繕,支承の修繕等	2028	2021	2022
10	沢川尻2号橋	市道泉の里線	5.9	不明	2021	III	撤去	-	2022	2022
11	槻ノ木橋	市道馬場・小町線	7.3	1962	2023	II	鋼部材の修繕,床版の修繕	2028	2022	2022
12	大沢跨線橋	市道大沢線	27.1	1975	2020	III	撤去	-	2023	2024
13	笹森橋	市道若畑線	8.1	不明	2021	III	床版の修繕	2026	2023	2024
14	大島橋	市道倉内大島線	15.1	1964	2022	III	床版、下部工の修繕	2027	2024	2024
15	常盤橋	市道横川・町後線	38.5	1963	2022	III	架替	2027	2020	2024
16	白子川橋	市道環状3号線	30.0	1964	2023	II	架替	2028	2020	2024
17	間木ノ沢橋	市道間木沢石塚線	30.2	1979	2022	II	床版の修繕	2027	2025	2025
18	京塚小橋	市道新田京塚線	30.0	1976	2023	II	主桁の修繕,床版の修繕	2028	2024	2024
19	中井沢川4号橋	市道西新町小豆田線	4.5	不明	2020	III	撤去	-	2025	2025
20	萱又橋	市道小沢線	4.2	不明	2021	III	下部工の修繕	2026	2025	2025
21	高野橋	市道野田稲荷神社脇線	4.3	不明	2021	III	架替	2026	2022	2022

6. 計画を策定した橋梁の修繕内容および次回橋梁点検年度

今後5年間で実施する修繕内容と次回点検年度を示します。次回点検年度は、最新の点検年度から5年後を基本とします。

表-4(2) 第4期橋梁長寿命化修繕計画に基づき修繕工事を実施する橋梁

番号	橋名	路線名	橋長(m)	架設年	最新の点検年度	判定区分	修繕内容	次回点検年度	対策の着手年	対策の完了年	修繕費(百万円)
1	高前橋	市道高屋敷平館線	30.0	1963	2023	Ⅳ	撤去	-	2025	2026	80
2	小安沢橋	市道小安沢線	12.7	1996	2024	Ⅳ	撤去(通行止め規制中)	2029	2026	2027	39
3	川井橋	市道中山・小淵ヶ沢線	123.2	1966	2023	Ⅳ	撤去(通行止め規制中)	2028	2026	2029	182
4	滝ノ原橋	市道小安沢滝ノ原線	51.5	1963	2023	Ⅳ	上下部工の修繕(通行止め規制中)	2028	2027	2029	101
5	小安橋	市道寒沢線	30.0	1962	2023	Ⅳ	撤去(通行止め規制中)	2028	2027	2029	121
6	山田幹線3号橋	市道中屋敷西3号線	3.3	不明	2021	Ⅲ	上部工の修繕	2026	2025	2026	15
7	赤川橋	市道馬場・小町線	10.0	1962	2023	Ⅲ	鋼部材の修繕,床版の修繕	2028	2025	2026	55
8	ハツ口橋	市道柳田上開線	3.6	不明	2024	Ⅲ	床版の修繕	2029	2025	2026	4
9	松並橋	市道成沢森合線	3.4	不明	2024	Ⅲ	上下部工の修繕	2029	2025	2026	4
10	八幡入口橋	市道上開下八幡線	2.9	不明	2024	Ⅲ	上部工の修繕	2029	2025	2026	6
11	赤倉橋	市道秋ノ宮・鬼首峠線	115.0	1961	2022	Ⅲ	撤去(通行止め規制中)	2027	2025	2028	326
12	白水沢橋	市道秋ノ宮・鬼首峠線	64.1	1964	2024	Ⅲ	撤去(通行止め規制中)	2029	2025	2030	128
13	白水沢小橋	市道秋ノ宮・鬼首峠線	43.1	1964	2024	Ⅲ	撤去(通行止め規制中)	2029	2025	2030	84
14	京塚中橋	市道新田京塚線	5.3	1971	2023	Ⅲ	上部工の修繕	2028	2026	2026	7
15	嶽ノ下1号橋	市道燕橋線	4.9	不明	2021	Ⅲ	床版の修繕	2026	2026	2027	11
16	野田橋	市道打越淵ノ上線	4.3	不明	2021	Ⅲ	上部工の修繕	2026	2026	2027	10
17	幹線排水路1号橋	市道沖鶴5号線	3.0	不明	2021	Ⅲ	上下部工の修繕	2026	2026	2027	10
18	東赤土山2号橋	市道東小通学路線	2.6	不明	2021	Ⅲ	上下部工の修繕	2026	2026	2027	11
19	新観音橋	市道佐竹町前森線	2.5	1967	2023	Ⅲ	上下部工の修繕	2028	2026	2027	20
20	十王堂橋	市道三途川線	3.9	不明	2021	Ⅲ	上下部工の修繕	2026	2027	2029	16
21	大沢2号橋	市道北向き観音公園線	2.8	不明	2021	Ⅲ	上部工の修繕	2026	2027	2029	14
22	館山橋	市道町後・北向線	21.0	1980	2023	Ⅲ	下部工の修繕	2028	2027	2029	34
23	上村1号橋	市道大門東福寺線	19.2	1973	2022	Ⅲ	上下部工の修繕	2027	2027	2030	47
24	岩崎弁天排水路1号橋	市道小中島南3号線	6.1	1975	2023	Ⅲ	下部工の修繕	2028	2027	2030	11
25	岩崎弁天排水路2号橋	市道堰添高野線	6.0	1975	2023	Ⅲ	下部工の修繕	2028	2027	2030	11
26	鍛冶屋布橋	市道鍛冶屋布線	5.9	1969	2024	Ⅲ	上下部工の修繕	2029	2027	2030	18
27	古川堰2号橋	市道八幡杉ノ宮2号西線	4.0	不明	2024	Ⅲ	上下部工の修繕	2029	2027	2030	11
28	京大橋	市道京塚大久保支線	3.5	不明	2024	Ⅲ	上部工の修繕	2029	2029	2030	11
29	平館1号橋	市道高屋敷平館線	3.0	不明	2024	Ⅲ	上下部工の修繕	2029	2029	2030	11

7.計画の推移と財政の見通し

(1)計画推移

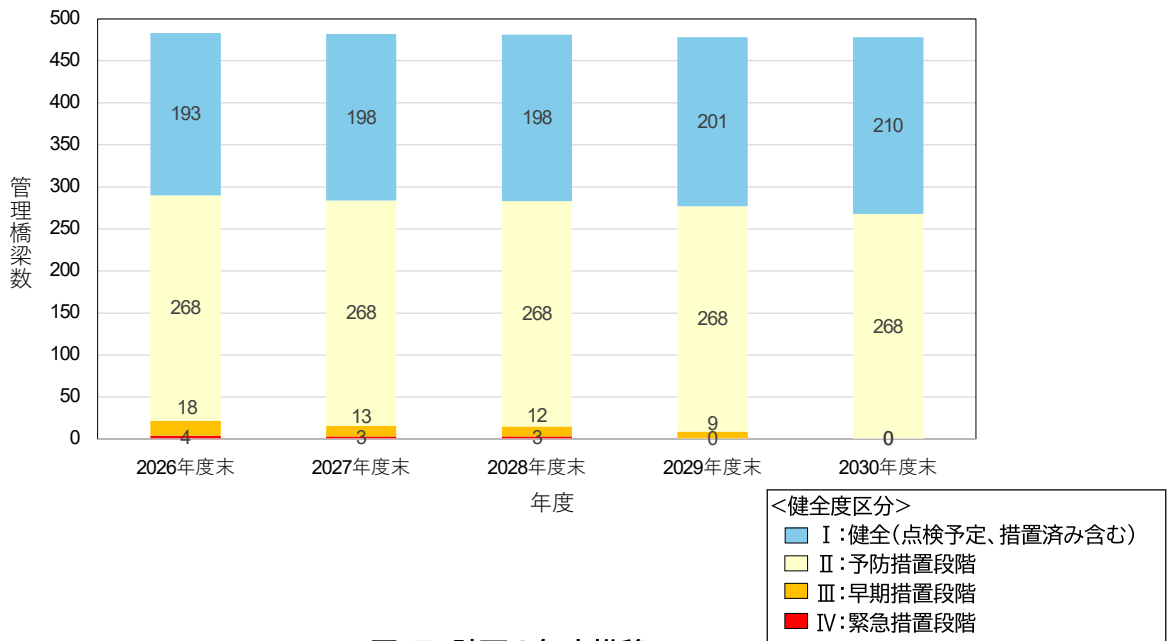


図-7 計画の年度推移

(2)財政計画

今後5年間の橋梁修繕費用及び財源内訳

(百万円)

	区分	事業費	財源内訳		交付税参入後 実質持出額
			補助金	地方債	
2026年度～2030年度(5ヶ年)	設計委託費	148	88	60	18
	修繕工事費	1,115	668	447	134
	点検委託費	176	105	71	22
	計	1,439	861	578	174

※補助金:道路メンテナンス事業(補助制度) 2025年度現在 補助率59.95%

地方債:過疎対策事業債などを想定(充当率100%、交付税参入率70%)

交付税参入後実質持出額:事業費の約12%

8. 計画策定担当部署

湯沢市 建設部 建設課 湯沢市佐竹町1番1号

TEL 0183-55-8268/ FAX 0183-72-2299